

埋蔵文化財課年報 〈20〉

平成 27 年度

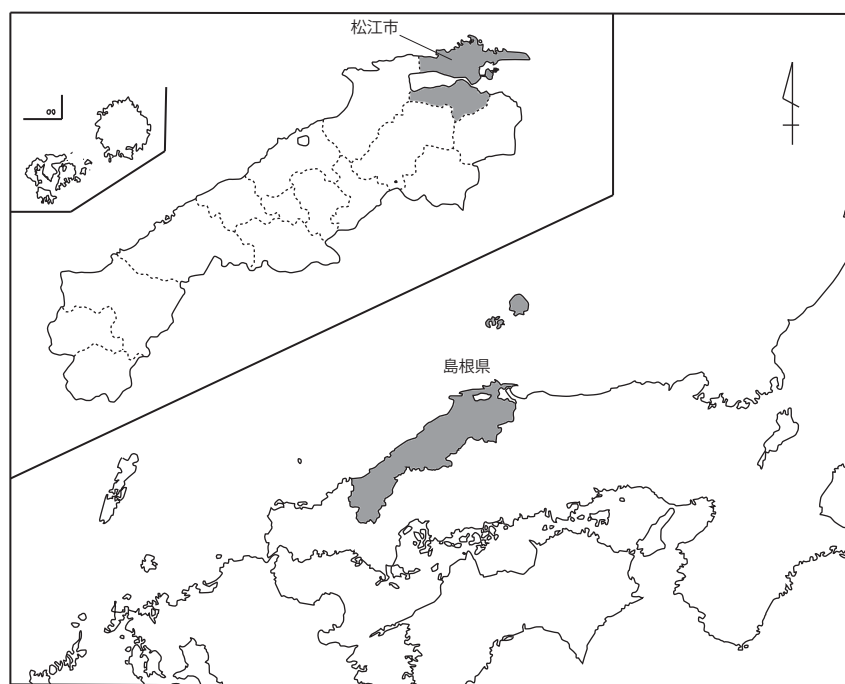


公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

表紙写真：松江城下町遺跡（母衣町 43-2 外）検出の長屋門石垣

目 次

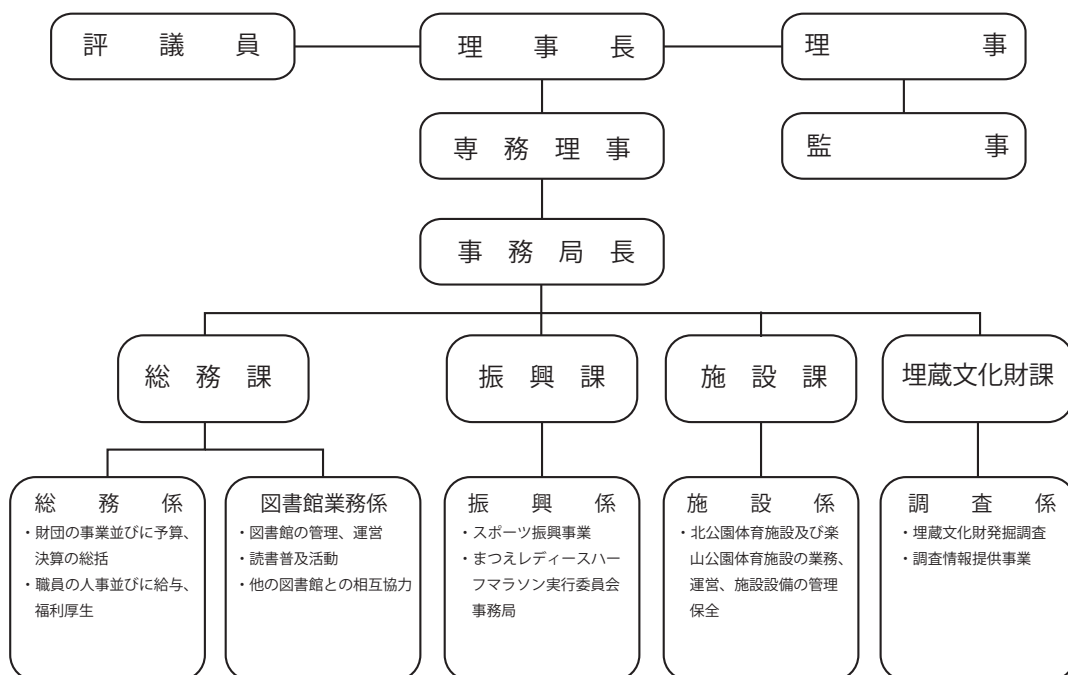
第 1 章	公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織	1
第 2 章	平成 27 年度事業の概要	3
	上岡遺跡	5
	黒田下屋敷遺跡	6
	森屋敷遺跡	7
	大庭北原遺跡	8
	広垣遺跡	9
	外屋敷遺跡	10
	松江城下町遺跡（母衣町 43 - 2 外）	11
	松江城下町遺跡（奥谷町 322）	12
	松江城下町遺跡（工事立会）	13
第 3 章	平成 26 年度以前の調査	16



松江市位置図

第1章 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団の沿革と組織

- ◇ 設 立 昭和 51 年（1976 年）4 月 1 日 財団法人松江市教育文化振興事業団が設立される。
- ◇ 沿 革 平成 25 年（2013 年）4 月 1 日
公益財団法人松江市スポーツ振興財団に移行。
平成 28 年（2016 年）7 月 1 日
公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団に名称変更。
- ◇ 所在地 松江市末次町 86 番地
- ◇ 目 的 この法人は、教育・スポーツ・文化の振興に関する事業を行い、もって市政の発展と市民の福祉向上に寄与することを目的とする。
- ◇ 事 業
 - (1) スポーツをとおして市民の健康な心とからだをつくり、生涯スポーツの普及・振興を目的とする事業。
 - (2) すぐれた芸術文化や文化情報に接する機会の提供と市民に新しい芸術文化の創造と活動の拠点とし、文化活動の普及に関する事業。
 - (3) 多様化する市民の学習ニーズや図書館サービスへの対応を図り、市民に親しまれる文化の広場としての役割を高めることで、読書普及活動の推進に関する事業。
 - (4) 埋蔵文化財の適切な保護及び活用のため、発掘調査・研究・出土品の収集・整理及び調査結果の情報提供を行う事業。
 - (5) 児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業。
 - (6) 教育・文化・スポーツ等に関する施設の管理運営に関する事業。
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業。
- ◇ 組 織 （平成 28 年 4 月 1 日現在）



第2章 平成27年度事業の概要

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課では、平成27年度において5班体制をとり、8遺跡の発掘調査と、工事立会調査、発掘調査報告書の作成を行った。事業の概要は以下のとおりである。

1. 発掘調査

上岡敷遺跡発掘調査では、7世紀末～9世紀前葉の須恵器を中心とした遺物が見つかったほか、掘立柱建物跡7棟等の遺構を検出した。黒田下屋敷遺跡発掘調査では、主に古墳時代の遺物を含む包含層を検出したほか、下層からは縄文前期初頭～中期の土器が出土した。森屋敷遺跡発掘調査では、弥生中期土器が数多く出土した。遺物の中には朝鮮半島系の土器が含まれ、当地での地域間交流の広さを窺い知る調査結果となった。大庭北原遺跡発掘調査では、弥生時代後期～古墳時代の竪穴建物跡2棟が見つかった。広垣遺跡発掘調査では、古墳時代中～後期の土器が大量に見つかったほか、保存状態の良い木製も出土した。また、遺構の中には古墳時代中期の祭祀遺構と判断できる、土器埋納坑を検出した。外屋敷遺跡発掘調査では、弥生時代中期の土坑のほかに奈良時代の区画溝や道路状遺構が見つかり、周辺には官衙の存在が予想される調査結果となった。

城山北公園線都市計画街路事業用地内で確認した松江城下町遺跡の2遺跡について、本調査を実施した。松江城下町遺跡（母衣町43-2外）では、城下町造成以前の時期と堀尾～京極期^註より始まる3面の遺構面を確認した。なかでも、堀尾～京極期の遺構面では長屋門跡を検出し、屋敷地内の建物配置を窺い知ることでできる成果が得られた。松江城下町遺跡（奥谷町322）では、城下町形成以前の水田耕作面と江戸時代以降の2つの遺構面を検出した。

2. 工事立会調査

城山北公園線都市計画街路事業用地内の松江城下町遺跡が確認された箇所、全面調査が行えない場所については、工事立会調査を行った。調査の結果、石組水路や石列等を検出した。

3. 報告書作成

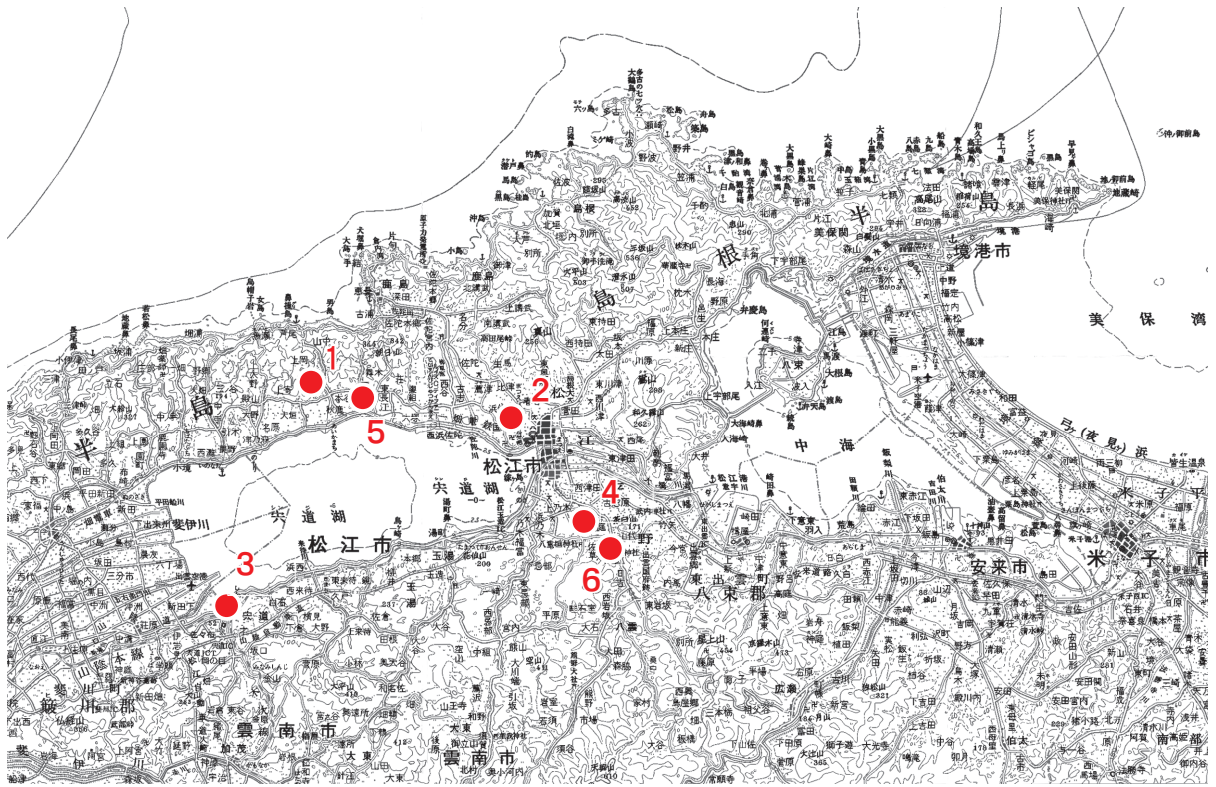
城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査の成果の一部について報告書作成を行った。このほか、黒田下屋敷遺跡、二部遺跡、臼畑・廻り遺跡、立ヶ袋遺跡、北浦松ノ木遺跡の発掘調査成果について報告書作成を行った。

註 松江藩主の時期区分

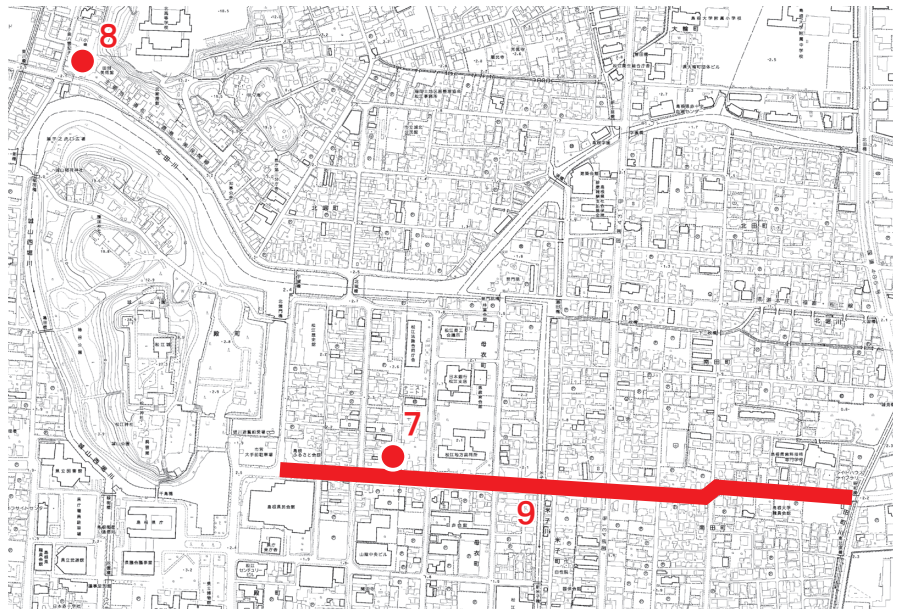
堀尾期：堀尾吉晴が松江城築城・城下町建設を開始したとされる1607年から断絶する1633年までの期間。

京極期：堀尾氏の後、京極忠高が藩主となった期間。1634～1637年の4年間。

松平期：京極氏の後、松平直政が1638年に松江藩主となり1871年まで続いた。

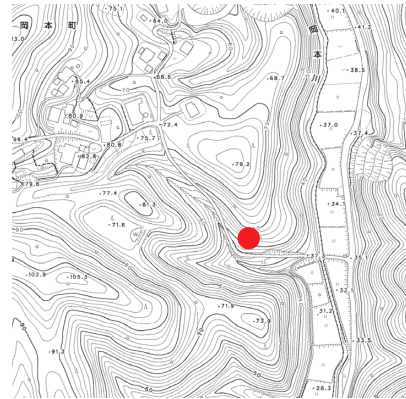


1. 上岡遺跡
2. 黒田下屋敷遺跡
3. 森屋敷遺跡
4. 大庭北原遺跡
5. 広垣遺跡
6. 外屋敷遺跡
7. 松江城下町遺跡
(母衣町 43 - 2 外)
8. 松江城下町遺跡
(奥谷町 322)
9. 松江城下町遺跡
(工事立会)



かみ おか い せき 上 岡 遺 跡

1. 所在地 松江市岡本町 1280-5、1281-1、1282-6
2. 調査面積 171.1 m²
3. 調査期間 平成 27 年 2 月 12 日～ 4 月 10 日
4. 調査原因 交通安全施設整備事業
(市道大野上岡線視距改良工事)
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 古代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

本遺跡は、島根半島の北山山系から南に派生する標高約 57.8 ～ 61.8m の丘陵斜面に位置する。遺跡の東側には宍道湖に向かって細い谷が延びている。

調査において、掘立柱建物跡 7 棟、柱穴列 5 本、通路、土坑、柱穴を検出した。掘立柱建物跡は、南北方向に延びる通路を挟んで、その西側で 6 棟、東側で 1 棟を検出した。西側の 6 棟には、左右上下で新旧関係が確認され、斜面上方から下方に向かって造られていた。建物に伴う出土遺物は少なく、8 世紀から 9 世紀前葉の坏や蓋が出土している。遺構面上の覆土からも、7 世紀末から 9 世紀前葉の土器が出土していることから、8 世紀から 9 世紀前葉頃の建物跡と思われる。

覆土から、須恵器の坏や蓋、皿、甕片、灯明皿等が出土し、なかには硯に転用されたものがみられた。また、土師器の皿や甕片などが出土しているが、貯蔵器や煮炊き具は少ない。

調査成果からすると、煮炊きをおこなって日常生活を営むような場所ではなく、昼間だけのようないくつかの居住地と思われる。古墳や山城が多く確認されている本調査区周辺において、古代の建物跡が検出されたことは有意義であり、今後の調査例の増加によって、宍道湖北側の様相が明らかになることを期待したい。

(廣濱貴子)



掘立柱建物跡完掘状況 (南西から撮影)

くろだしもやしきいせき 黒田下屋敷遺跡

1. 所在地 松江市黒田町 555-1 外
2. 調査面積 384 m²
3. 調査期間 平成 27 年 4 月 17 日～7 月 6 日
4. 調査原因 宅地造成
5. 遺跡の種類 散布地
6. 遺跡の年代 縄文時代～近世
7. 遺跡の概要



調査地位置図

黒田町は近年宅地化が進んでいるが、土地が低いことから、かつては黒田芹を特産とする湿地が広がっていた。

遺跡は黒田町の西にある丘陵地の東麓にあり、丘陵地と低地のちょうど境目あたりに位置している。掘り下げを実施したところ、上層からは古墳時代～近世にかけての遺物が小片となって出土した。これらに伴う遺構が検出されなかったことから、遺物は丘陵から転落してきたものと思われる。大き目の遺物が少なかったのは、耕作を受けた層の流れ込みが原因であろう。

下層からは縄文時代前期初頭～中期にかけての土器、石器が多く出土した。縄文時代の遺物包含層の中には木葉や小枝などの有機質が未分解のまま残っていたことから、水面下や湿地のようなところで自然堆積したものと思われる。さらに、検出した標高や周辺の地形から、当遺跡は縄文時代前期初頭～中期頃の古穴道湖の汀線付近にあった可能性が高いと推察された。自然科学分野で縄文海進や海退の旧地形研究が進められている一方、遺物を伴う発掘調査で汀線の位置が示せたことは貴重な成果であった。今後同様の事例が増加し、古環境と遺跡分布の関連性がより具体的に示されることを期待する。

(江川幸子)



黒田下屋敷遺跡完掘状況（南から撮影）



縄文土器出土状況

もり や しき い せき 森 屋 敷 遺 跡

1. 所在地 松江市宍道町宍道 885 - 3 ほか
2. 調査面積 302.4 m²
3. 調査期間 平成 27 年 10 月 21 日～ 11 月 24 日
4. 調査原因 宍道複合施設進入路整備
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 弥生時代～近世
7. 遺跡の概要



調査地位置図

調査地は、宍道湖から南に約 200 ～ 300 m 離れた南西から北東に延びる砂州上に立地する。

調査範囲は、道路建設予定地で幅は最大で約 4 m、東西に約 1 km と長いものである。試掘段階から湧水が激しく、砂地の立地上、深く掘削すると崩落の危険性があったため、この長い調査区は任意のスパンで区切り、1 スパンを調査、埋戻してから次のスパンを調査するという方法で行った。

調査では、明らかな集落跡は確認できなかったものの、自然堆積層の上層に遺物包含層が存在し、この包含層上面で土坑、ピット、溝を検出した。この遺物包含層からは多量の弥生中期土器が出土したほか、弥生後期から近世にかけての遺物が出土しており、長い期間存続した遺跡であることが判明した。出土遺物のなかには、広島県北部から流入してきた塩町式系土器や朝鮮半島系土器もあり、他地域との交流をうかがわせるものが見つかった。

調査地周辺は、江戸時代には山陰道と宍道尾道街道の合流地点にあたり、宿場町が形成されており、このことも合わせると古くから長い間、交通の要衝であったことを想定させる良好な資料が得られた。

(徳永桃代)



検出したピット、土坑、溝



塩町式系土器



朝鮮半島系土器

おお ば きた はら い せき 大 庭 北 原 遺 跡

1. 所在地 松江市大庭町 1146 - 1 外
2. 調査面積 175 m²
3. 調査期間 平成 27 年 12 月 9 日～ 12 月 24 日
4. 調査原因 一般県道八重垣神社竹矢線大庭工区道路整備事業
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 弥生～古墳時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

調査地は、松江市街地から南に約 6 km 離れた小高い丘陵の頂上部に位置する。

調査では、平面形が隅丸方形の竪穴建物跡 (SI01) 1 棟、平面形が方形の竪穴建物跡 (SI02) 1 棟、素掘り溝、落とし穴のほか、多数のピットを検出した。

竪穴建物跡 (SI01) では、壁際溝、対となる柱穴 2 個、中央ピットを検出しており、中央ピットから弥生時代後期の甕片が出土した。建物跡の北半分は調査区外になるため、全容は不明であるが、建物規模は直径約 5 m を測る。竪穴建物跡 (SI02) では壁際溝と柱穴を検出している。建物跡の北半分は後世の削平のため、壁際溝が失われているものの、直径約 5 m の規模と推定できる。壁際溝からはすり石が出土したほか、細片ながら古墳時代の土師器片も少数認められた。

落とし穴は、長軸約 1.4 m × 短軸約 1 m の平面楕円形、深さ約 1.5 m を測り、底面には深さ約 50 cm のピットが穿たれている。

本調査地の北西側、約 300 m 離れた大庭小原遺跡でも古墳時代前期の竪穴建物跡や弥生時代の貯蔵穴を検出しており、遺跡が存在する丘陵上に比較的まとまった集落があったことが推定される。今後、周辺の遺跡の成果を総合して考察していくことにより、周辺の集落の発展の様相が明らかになると期待している。

(徳永桃代)



検出した竪穴建物跡 (北から撮影)

ひろがきいせき 広垣遺跡

1. 所在地 松江市西長江町 192-2 外
2. 調査面積 534.5 m²
3. 調査期間 平成 27 年 11 月 11 日～
平成 28 年 3 月 22 日
4. 調査原因 道路整備
5. 遺跡の種類 散布地
6. 遺跡の年代 古墳時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

調査区北辺で、安定基盤に掘られた古墳時代中期の土器埋納坑（SK01）を検出した。平面プランは不整形で、調査区外の東側に続いている。土坑内には隙間なく土器が詰められており、祭祀遺構と判断する。

このほかには古墳時代中～後期の自然流路跡を検出し、柵列等を確認したが、遺構は多くない。自然流路の堆積土中から古墳時代中～後期の大量の土器、木製品が出土しており、これらは調査区よりも高所にある生活遺跡から流されてきたものと考えられるが、遺物の残存状況が非常に良好であることから、生活遺跡は本遺跡からほど近い場所に存在しているものと思われる。

今回の調査では明確な水田遺構は見つからなかったが、鍬などの農工具が出土していること、一部で耕作の痕跡とも捉えられる地山の擾乱が確認されたこと、地形の面からも周辺に水田が存在していた可能性が高いことから、当調査地は居住地と耕作地の中間地のような場所であったと推察する。

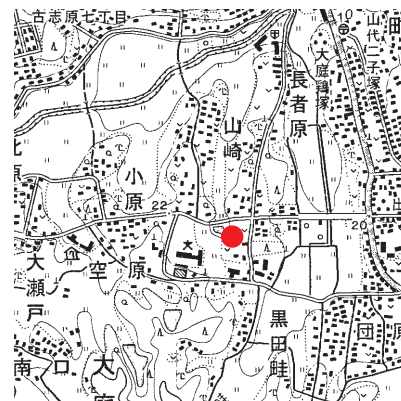
(江川幸子)



土器埋納坑（SK01）検出状況（西から撮影）

そと や しき い せき 外 屋 敷 遺 跡

1. 所在地 松江市大庭町字外屋敷 800 番地外
2. 調査面積 1,431 m²
3. 調査期間 平成 27 年 12 月 14 日～
平成 28 年 3 月 25 日
4. 調査原因 宅地開発事業
5. 遺跡の種類 集落跡
6. 遺跡の年代 弥生時代～近世
7. 遺跡の概要



調査地位位置図

本遺跡の立地する一帯は、標高 20～25 m の乃木段丘と呼ばれる
なだらかな段丘上にあり、東淵寺古墳の西側に隣接し、古代山陰道（まにしのみち正西道）の推定地のひとつとし
ても知られている場所である。

調査の結果、弥生時代中期から近世に至る遺構・遺物を確認した。主な遺構として掘立柱建物跡 7 棟、
道路遺構 1 本、溝 10 条、土坑 112 基、柱穴 398 基（掘立柱建物の柱穴を含む）、柵列 1 条を検出している。

弥生時代中期の遺構として土坑 5 基を検出し、本遺跡の上限を示す。古墳時代の遺構は今回の調査
では確認していないが、遺物は東淵寺古墳周辺の調査区で円筒埴輪や子持壺の小片が出土した。

古墳時代～飛鳥時代の空白期を挟み、奈良時代の遺構として官衙施設あるいは集落を圍繞する区画
溝と推測する箱堀状の溝 SD01 を検出した。また、東西方向の道路遺構 SF01 を検出し、道路の両側に
側溝を備えている状況を確認した。道路側溝は連続土坑状の掘方を持ち、土坑 1 単位の規模は長さ約
3.5～6.0 m、幅約 1.5～2.3 m、深さ約 0.3～0.5 m を測る。SF01 の道路幅員は、初期段階には
4.0 m となっていたが、最終段階には 5.4 m を測る。今後、SF01 の推定ルートについては、古代出雲
の主要道路のひとつとして注目しておく必要があるものと考えられる。

中世～近世の遺構として掘立柱建物跡 7 棟、溝 5 条を検出した。本遺跡では、12 世紀代後半～14
世紀代にかけて概ね 3×2 間の掘立柱建物が順次営まれていたものと考えられる。さらに、東淵寺古
墳に近接する位置では、東淵寺に関わる施設（御堂・くり庫裏）の建物柱穴を検出している。

（小山泰生）



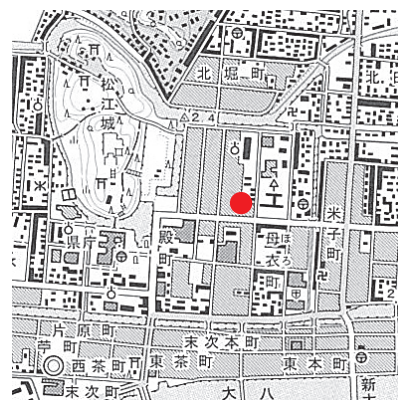
古代（8 世紀代）の箱堀状の溝 SD01（南東から撮影）



中世の柱穴・土坑群（北西から撮影）

まつえじょうかまちいせき ほろまち ほか
松江城下町遺跡 (母衣町 43-2 外)

1. 所在地 松江市母衣町 43 番地 2 外
2. 調査面積 40.5 m²
3. 調査期間 平成 27 年 4 月 23 日～6 月 24 日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路工事
5. 遺跡の種類 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 遺跡の概要



調査地位置図

調査地は、松江城本丸から南東に約 450 m 離れた大手前通りの北側に位置し、江戸時代の絵図では、堀尾期 (1607～1633 年)

は「野村孫太郎」、京極期 (1634～1637 年) は「赤林権左衛門」、松平期 (1638～1871 年) は「松原宿祢」や「黒川又左衛門」の 500～1000 石の上級家臣の屋敷地に比定される。

調査では、城下町造成以前 (旧地表面)、城下町初期造成段階 (第 1-A 遺構面)、堀尾期～京極期 (第 1-B 遺構面)、松平期前半 (第 2 遺構面) の 4 つの遺構面を確認した。

城下町造成以前の旧地表面は、I a 層を基盤とする水田耕作面の可能性があり、母衣町周辺にわたって水田が広がっていたことを窺わせる興味深い資料を得ることができた。

城下町初期造成段階の遺構面で検出した素掘の大溝は、今回の調査では大溝底部に堆積する粘質土 (流水ラミナ層) の状況から短期間は水が流れていたが、その後人為的に一気に埋め戻され、掘り直しの痕跡も見られないということが判明した。大溝の存続期間は、17 世紀代初頭の城下町形成過程にあたる城下の地割と屋敷地の造成を実施した段階に掘削し、造成完了後には一気に埋め戻すといった、かなり短期間で過渡的な時期に限定されることが指摘でき、その根拠となる調査事例となった。

堀尾～京極期の遺構面で検出した長屋門跡は、屋敷絵図が見つからない 17 世紀代前半の武家屋敷の建物配置を具体的に示す有効な資料と考え、松江城下町における屋敷地表口周辺の環境復元を考察する際の一助と成り得るものであった。今回の調査では、概ね 17 世紀代を中心とした遺構検出に留まったが、松江城下町の形成・成立過程を辿ることのできる重要な知見が得られた。

(小山泰生)



素掘の大溝 (北西から撮影)



長屋門石垣 (北西から撮影)

まつえじょうかまちいせき こうじりっかい
松江城下町遺跡 (工事立会)

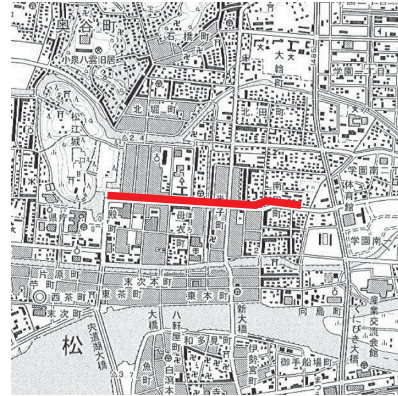
1. 所在地 松江市殿町、母衣町、南田町
2. 調査面積
3. 調査期間 平成 27 年 4 月 1 日～ 3 月 31 日
4. 調査原因 城山北公園線都市計画街路事業
5. 遺跡の種類 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 遺跡の概要

前年度に引き続き、道路整備に伴う電線共同溝などの工事に立ち会い、49 箇所を調査を行った。その結果、石列、石組水路等の遺構を検出した。

島根県民会館北側にて実施した、電線共同溝工事に伴う立会では、石組水路の跡を確認した。既存の道路側溝を除去すると、側溝裏側から大海崎石を使用した江戸時代の石組が見つかった。土層断面から大海崎石の石組は城下町造成時の土層に沈み込む形となっていたため、江戸時代初期に造成されたものと考えられる。また、石組の下層からは東西に延びる大溝を検出した。この大溝は松江城下町遺跡の調査でいくつか見つかり、屋敷地割の境界や造成土の採掘、地盤の乾燥を促すことを目的としたものと解釈されている。

松江城下町遺跡（母衣町 43 - 2 外）に隣接する地点の地盤改良工事の際には同遺跡で見つかった長屋門の石垣の続きとなる石垣を検出した。この調査結果から、石垣は少なくとも東西に約 13 m の長さまで延び、幅約 4 m の表門部分を挟んでさらに東へ続くことが推測できる調査結果となった。

松江城下町遺跡（母衣町 43 - 2 外）の西側に位置する松江・鹿島・美保関線車道部分での立会調査では標高約 1.1 m の高さで硬く締まった砂層を検出した。この場所は江戸時代から道路部分であったことが当時の絵図面から推測でき、検出した標高も堀尾期の遺構検出面の高さとほぼ同じことから、堀尾期の道路面を見つけたものとする。



調査地位置図

(川西学)



長屋門石垣検出状況（北西から撮影）



石組水路検出状況（北東から撮影）

第3章 平成26年度以前の調査

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H5	釜代1号古墳外	西浜佐陀町	粘土槨を伴う長大な割竹型木棺検出。水銀朱・鏡・玉類出土。	1994刊
H5	菅沢谷横穴群	乃白町	横穴墓12基を検出。	1994刊
H5	向遺跡	国屋町	奈良～平安期の集落跡検出。	1994刊
H5	論田4号墳	西津田町	(課設立以前の報告書作成)古墳時代後期円墳と横穴墓群の調査成果。	1994刊
H5	柴尾遺跡	上東川津町	前期古墳と、縄文時代後期の黒曜石を中心とする石器生産遺跡を確認。	1994刊
H5	角森遺跡	八幡町	弥生後期～古墳時代にかけての遺物包含地。	1994刊
H5	敷居谷古墳群	東生馬町	5世紀の方墳を含む計3基の方墳を検出。後世の祭祀関連遺物が出土。	1994刊
H5	出雲国分寺跡	竹矢町	僧房の西方を調査。瓦溜り検出。	1995刊
H5	深田遺跡	大庭町	奈良～平安期の道路状遺構と円形土坑列を検出。	
H5	岩汐峠遺跡ほか	大井町	礫石経塚を検出。	1999刊
H5	出雲国府跡	大草町	直接国府に関連する遺構は検出されなかった。	
H5	勝負谷遺跡	大庭町	さいの神と積石塚、古代と考えられる道路状遺構を検出。	1999刊
H5	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は検出されなかった。	1999刊
H6	柴尾遺跡ほか	上東川津町	縄文時代の石器生産遺跡と前期古墳を調査。	1995刊
H6	敷居谷古墳群	東生馬町	後期初頭の方墳。主体部から太刀等が出土。	1995刊
H6	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物包含層のみ検出。遺構は発見されなかった。	1999刊
H6	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期から後期初頭の堀立柱建物群検出。	1999刊
H6	舟津横穴群	薦津町	横穴墓2穴と近世貯蔵穴3穴を検出。	1995刊
H6	筆ノ尾横穴群	東長江町	横穴墓5基を検出。	1995刊
H6	寺の前遺跡	山代町	自然流路から古代瓦、陶製鷗尾等が出土。	1995刊
H6	黒田畦遺跡	大庭町	奈良時代の土坑内から墨書土器・製塩土器・律令様式の土器が出土。	1995刊
H6	二名留遺跡	乃木福富町	古墳時代と近世の遺物包含地。	1995刊
H6	向山1号墳	大庭町	トレンチ調査で未盗掘の石棺式石室発見。	1996刊
H7	向山古墳群	大庭町	32×20m以上の方墳。羨道から前庭にかけて馬具、玉等が出土。	1998刊
H7	遅倉横穴群	朝酌町	横穴墓5基を検出。	1999刊
H7	松江北東部遺跡	上本庄町	遺物数片が出土。遺構は検出されなかった。	1999刊
H7	宮尾古墳群ほか	西川津・上東川津町	石器のほか、室町後期～安土桃山時代の五輪塔2基が出土。	1996刊
H7	袋尻遺跡群	乃白(現平成)町	堅穴住居跡7棟、土壙5基、後期古墳2基、近世墓2基等を検出。	1998刊
H7	四王寺跡	山代町	調査範囲が狭く、四王寺との関連性を判断するには至らなかった。	1996刊
H7	大久保遺跡	乃白町	焼土壙、ピットを検出。	1996刊
H7	川原後谷横穴群	川原町	横穴墓の墓道のみ調査。	1996刊
H7	寺山小田遺跡	矢田町	古墳時代中～後期の集落跡検出。2棟の建物内から玉類出土。	1996刊
H8	小無田II遺跡	山代町	山代郷南新造院の瓦を焼いた8世紀代の瓦窯跡3基を検出。	1997刊
H8	米坂遺跡	西尾町	古墳時代中期の集落跡を検出。	1999刊
H8	柴III遺跡	西川津町	弥生終末期の玉造工房跡含む堅穴式住居跡3棟等を検出。	1997刊
H8	袋尻遺跡群	平成町	古墳6基、堅穴住居跡1棟、堀立柱建物跡1棟、土壙3基、横穴墓3穴を検出。	1998刊
H8	松江北東部遺跡	上本庄町	堅穴住居跡と堀立柱建物跡を検出。子持勾玉が出土。	1999刊
H9	大佐遺跡群	西持田町	古墳時代初頭の墳丘墓と、戦国時代の真山城塞群の一部を検出。	1999刊
H9	米坂古墳群	西尾町	古墳時代中期～後期の方墳7基と埋葬施設8基を検出。	1999刊
H9	柴尾遺跡	西尾町	遺構、遺物は検出されなかった。	1999刊
H9	松江北東部遺跡	上本庄町	中世の堀立柱建物跡2棟、井戸状遺構1基を検出。有舌尖頭器出土。	1999刊
H9	田和山遺跡群	乃白町	弥生時代前期～中期の3重の環壕を検出。銅剣形石剣などが出土。	2005刊
H10	夫手遺跡	手角町	約6000年前の漆液容器、木製の櫛が出土。	2000刊
H11	久米遺跡群	比津町	古墳時代後期～奈良時代の堅穴住居跡1棟、堀立柱建物跡11棟を検出。	2000刊
H11	門田遺跡	乃木福富町	弥生時代中期の自然流路、溝、土壙、ピット、杭列などを検出。	2000刊
H11	大坪遺跡	山代町・大草町	「恐々謹解・・・」と記された木簡が出土。	2001刊
H10 ～ H11	田和山遺跡群	乃白町	三重の環壕検出。濠の外側で堅穴住居跡、堀立柱建物跡を多数検出。	2005刊
H12	北小原古墳群	西浜佐陀町	石棺2基検出(内1基は現状保存)。小型仿製鏡が出土した。	2000刊
H12	田中谷遺跡Ⅲ区	法吉町	堀立柱建物跡と自然河道を検出。	2001刊
H12	雲垣遺跡	乃白町	弥生時代中期を中心とした遺物包含地。	2001刊
H12	大坪遺跡	山代町・大草町	自然流路に挟まれた微高地の存在を確認。木製品出土。	2002刊
H12	法吉遺跡	法吉町	自然流路からドングリ集積遺構を検出。縄文土器の細片や黒曜石が出土。	2002刊
H12	舎人遺跡	国屋町・黒田町	城跡に結びつく遺構は確認されなかった。近世以降の遺物が出土。	2002刊
H13	奥山古墳群	上乃木町	古墳時代中期頃の方墳6基を調査。鉄剣や鉄鏃等が出土。	2002刊
H13	大坪遺跡	山代町・大草町	自然河道を検出。古墳中期～後期の土器と木製品が出土。	2002刊
H13	荒隈城跡(小十太郎地区)	国屋町	近世以降の古墳群を検出。幕末～近世の土器出土。	2002刊
H13	法吉遺跡	法吉町	土壙や杭列を検出。弥生～10世紀代の土器、木製品が出土。	2002刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H 13	山津窯跡	大井町	土坑、溝、旧河道などを検出。古墳～奈良時代の遺物出土。	2006 刊
H 13	田和山遺跡	乃白町	建物跡、土壙、小石棺、自然流水路などを検出。	2005 刊
H 14	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生中期～奈良時代の竪穴住居跡や墓壙、水溜遺構等を検出。	2004 刊
H 14	犬丸遺跡	上大野町	溝 2 条・土坑 3 基を検出。	年報Ⅶ
H 14	渋ヶ谷遺跡(措松地区)	上乃木町	道路状遺構や溝状遺構、上幅 6～7 m の断面 V 字～逆台形の大溝を検出。	2005 刊
H 14	田和山遺跡群	乃白町	掘立柱建物、小石棺を検出。	2005 刊
H 14	法吉遺跡	法吉町	湿地層から、弥生～10 世紀の土器片と木製品が出土。	2004 刊
H 14	山津遺跡	大井町	6 世紀後半と 8 世紀前半の須恵器窯跡等を検出。鷗尾・陶棺が出土。	2006 刊
H 14	薦沢砦跡	法吉町	城郭遺構は検出されなかった。	2005 刊
H 15	菅田横穴墓群	菅田町	横穴墓 22 穴を検出。	2005 刊
H 15	渋ヶ谷遺跡(措松地区)	大庭町	道路状遺構や溝状遺構、大溝を検出。	2006 刊
H 15	山津窯跡	大井町	窯壁と 7 世紀中～後半の須恵器が出土。	2006 刊
H 15	井廻古墳	上大野町	石棺の一部が残存。	年報Ⅷ
H 15	宮ノ前遺跡	持田町	竪穴住居跡 2 棟等を検出。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土。	年報Ⅷ
H 15	石田遺跡	浜佐陀町・薦津町	弥生時代の加工段と古墳 1 基を検出した。主体部から鏡等が出土した。	2004 刊
H 15	荒隈城跡(小十太郎地区)	国屋町	大規模な土木工事による山城遺構を検出。	年報Ⅶ
H 16	渋ヶ谷遺跡	大庭町	古墳時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を検出。焼失住居も確認。	2006 刊
H 16	渋ヶ谷 1 号窯	大庭町	6 世紀初頭の須恵器窯を検出。	2006 刊
H 16	措松遺跡	大庭町	古代道路遺構と考えられる遺構を検出。	2006 刊
H 16	山津遺跡	大井町	7 世紀代の須恵器と窯壁の塊が出土。	2006 刊
H 16	久傳遺跡	比津町	古代時代を中心とする掘立柱建物跡を 7 棟検出。	2006 刊
H 16	向山西遺跡	古志原	丘陵頂部付近から弥生後期初頭の竪穴住居跡 2 棟を検出。	2006 刊
H 17	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	弥生後期初頭の玉作工房跡を検出。	2007 刊
H 17	二反田遺跡	春日町	弥生時代の竪穴住居跡 3 棟、中近世の大型土坑を検出。	2006 刊
H 17	勝負奥遺跡	乃白町	弥生後期中葉の竪穴住居跡を検出。	2006 刊
H 17	矢の原Ⅱ遺跡	上乃木町	道路状遺構を 2 条検出。	年報Ⅹ
H 17	山津遺跡 G 区	大井町	7 世紀末頃を主とする須恵器片と 5 体の土馬が出土。	年報Ⅹ
H 17	松江城下町遺跡	母衣町	松江裁判所跡で、城下町形成時の造成土を確認。	年報Ⅹ
H 18	西川津遺跡 C 区	西川津町	大量の縄文土器・弥生土器・土師器・石器が出土。	2011 刊
H 18	古屋敷Ⅱ遺跡	西川津町	10～11 世紀前後を主とする土師器・須恵器と若干のピットを検出。	2011 刊
H 18	大勝間山城跡	鹿島町名分	中世の山城跡。弥生中・後期の住居跡と運河佐陀川の揚土置場を検出。	2009 刊
H 18	鶴灘山遺跡他	鹿島町名分	H 17 年に調査が許可されなかった大勝間山城の一隅を調査。	2007 刊
H 18	団原Ⅱ遺跡	大庭町	近世～現代の畑や坑を確認。	
H 18	松江城下町遺跡	殿町 287	家老屋敷跡の調査で、4 つの遺構面を検出。	2011 刊
H 18	松江城下町遺跡	南田町 77-1 外	素掘りの大溝やウラジロ敷詰層を検出。	2012 刊
H 18	松江城下町遺跡	南田町 52-32 外	ウラジロ(シダ)を敷いた跡を検出。	2012 刊
H 18	松江城下町遺跡	南田町 52-1 外	〃	2012 刊
H 18	松江城下町遺跡	母衣町 193-2 外	石組水路を検出。	2014 予
H 18	松江城下町遺跡	殿町 344 外	柱穴列、石組、石列や竹組を伴う遺構を検出。	2013 刊
H 18	松江城下町遺跡	殿町 345-1 外	石垣と石列を検出。	2013 刊
H 18	田原谷遺跡	春日町	古墳時代の土壙墓の他、中・近世の建物跡を検出した。	
H 18	岩汐窯跡	大井町	須恵器窯跡 1 基を確認した。	2009 刊
H 18	石の堂・新宮遺跡	岡本町	両遺跡とも土師器等の遺物を含む自然流路を検出した。	2009 刊
H 19	松江城下町遺跡	殿町 287、279	家老屋敷跡の調査。南北に別々の屋敷跡が存在した。	2011 刊
H 19	松江城下町遺跡	母衣町 68	武家屋敷跡の調査。	2012 刊
H 19	松江城下町遺跡	米子町 49-3	武家屋敷跡の調査で、4 つの遺構面を確認。	2014 刊
H 19	松江城下町遺跡	米子町 40-4	町屋と思われるところを調査。礎石を確認し、大量の陶磁器類等が出土。	2014 刊
H 19	松江城下町遺跡	南田町	武家屋敷跡の調査。江戸時代初期の造成工事に伴うウラジロや杭を検出。	2012 刊
H 19	佐太前遺跡	鹿島町佐太宮内	弥生時代前期の大溝と中世の大型建物を検出。	2010 刊
H 19	田中谷Ⅱ遺跡	西法吉町	加工段やピットを検出。9 世紀代の須恵器類が出土。	2008 刊
H 19	小原遺跡	八雲町東岩坂	中世の墓壙と思われる土坑を検出し、竜泉系の青磁や渡来銭が出土。	2008 刊
H 19	千酌条里制遺跡・中殿遺跡	美保関町千酌	条里関連の暗渠を検出。中殿遺跡から弥生後期～古墳中期の遺物が出土。	2010 刊
H 19	春日山古墳群・寺ノ脇遺跡	手角町町並	古墳前期～中期の古墳群。寺ノ脇遺跡は縄文時代～近世の遺物が出土。	2009 刊
H 19	砂口遺跡	大庭町	古墳中期の住居跡と推定される遺構を検出。弥生中期の遺物も数点出土。	
H 19	大坪遺跡	大草町・山代町	弥生時代の住居跡を検出。	2008 刊
H 19	能登堀遺跡	宍道町宍道	古墳後期の溝状遺構を検出。中国磁器や石製硯が出土。	2009 刊
H 19	大勝間山城跡	鹿島町名分	弥生中・後期の住居跡、山城の曲輪、近世運河の造作遺構を検出。	2009 刊
H 19	西屋敷遺跡	大庭町	地山を覆う層から少量の須恵器が出土。	
H 19	清水遺跡	鹿島町佐太宮内	中世の土地造成、18 世紀代の掘立柱建物を検出。	

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H 19	石台Ⅱ遺跡	東津田	流水の堆積土層を確認。中世の土師質土器や弥生前期の遺物が出土。	2009刊
H 19	乃木西廻遺跡	上乃木町	中世の祭祀遺構を検出。土坑から中国製褐四耳壺が出土した。	年報XI
H 20	松江城下町遺跡	米子町 47	武家屋敷の調査。ゴミ穴を検出した。	2014刊
H 20	松江城下町遺跡	南田町 52 - 7	武家屋敷の調査。ウラジロを検出した。	2012刊
H 20	松江城下町遺跡	母衣町 40 外	武家屋敷の調査。3つの遺構面から土坑や水路、建物礎石などを検出。	2013刊
H 20	松江城下町遺跡	母衣町 68	H 19からの継続調査。石組遺構や井戸、土坑などを検出。	2012刊
H 20	松江城下町遺跡	殿町 287、279	H 19からの継続調査。江戸初期の建物礎石などを検出。	2011刊
H 20	石台Ⅱ遺跡	東津田	H 19からの継続調査。縄文土器や弥生土器などが出土。	2009刊
H 20	千酌条里制遺跡・中殿遺跡・修理田遺跡	美保関町千酌	H 19からの継続調査。修理田遺跡から掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H 20	寺ノ脇遺跡	手角町町並	H 19からの継続調査。古墳後期の遺構面を検出。縄文～古墳の土器が出土。	2009刊
H 20	松江城下町遺跡	母衣町・米子町・南田町	工事立会調査。29ヶ所を実施し、主にゴミ穴を検出。	
H 20 ～ H 21	佐太前遺跡	鹿島町名分	H 19からの継続調査。中近世の遺構面から大型掘立柱建物跡を検出。	2010刊
H 20	戸崎遺跡	上佐陀町	弥生中期末～後期初頭の堅穴住居跡を検出。	2008刊
H 20	能登堀遺跡	宍道町宍道	H 19からの継続調査。遺構は検出されず、遺物包含層を確認。	2009刊
H 21	出雲国分寺跡	竹矢町	伽藍城区画溝、瓦敷遺構2基、粘土採堀坑8基等を検出。	2010刊
H 21	石流遺跡	法吉町	7世紀初頭の加工段、掘立柱建物跡等を検出。	2010刊
H 21	来美南遺跡	山代町	遺構は検出されなかった。古代瓦が多数出土。	2009刊
H 21	史跡出雲玉作跡宮ノ上地区	玉湯町	江戸時代の御茶屋建物に付随する庭園の調査。苑池に水を引く導水路を検出。	2010刊
H 21	池平山城跡	鹿島町	中世山城の調査で、郭、道路状遺構等を確認。	2009刊
H 21	上講武清水遺跡	鹿島町	8世紀前後の掘立柱建物跡1棟や土坑、溝状遺構、ピット群を検出。	2011刊
H 21	佐太前遺跡	鹿島町	工事立会。古代末～中世の遺構面と弥生時代後期～古墳時代初の遺構面を検出。	2010刊
H 21	松江城下町遺跡	母衣町 40 外	遺構面を3面検出した。江戸時代初頭面で土坑、壁、溝状遺構を確認。	2013刊
H 21	松江城下町遺跡	殿町 344 外	遺構面を4面検出。17世紀初頭の遺構面では土留工事跡を検出。	2013刊
H 21	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を56ヶ所を実施。江戸時代の石組水路、ゴミ穴等を検出。	
H 21	松江城下町遺跡	米子町 55 - 5	町屋の調査。礎石や石積遺構を検出。獣骨が入った桶が出土。	2014刊
H 21	松江城下町遺跡	殿町 191-13 外	武家地屋敷の調査で、柱穴、ゴミ穴を検出。	2013刊
H 22	西後遺跡	西谷町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2012刊
H 22	米塚遺跡	西谷町	礫石経塚を検出。	2012刊
H 22	上講武大石遺跡	鹿島町上講武	8世紀中頃～9世紀前半の集落跡を検出。	2012刊
H 22	キコロジ遺跡	朝酌町	6世紀後半～9世紀の遺物が大量に出土。	2011刊
H 22	石屋遺跡	東津田町	どんぐりの貯蔵穴1基を検出。	2011刊
H 22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門から中門の参道脇を調査。独立ピット（旗立痕か）1基を検出。	
H 22	出雲国分寺跡	竹矢町	南門前を調査。造成土を検出。	2012刊
H 22	野塚遺跡	八束町	時期不明の掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H 22	松江城下町遺跡	殿町 344 外	武家屋敷の調査で、7つの遺構面を検出。	2013刊
H 22	松江城下町遺跡	母衣町 180-28・29	外掘石垣と、それに繋がる基壇状石垣を検出。	2014刊
H 22	松江城下町遺跡	南田町 80-11	武家屋敷の調査で、ゴミ穴等のほか、江戸時代初期の溝を検出。	2014刊
H 22	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・南田町	工事立会調査を22ヶ所を実施。素掘りの大溝を各所で検出。	
H 22	松江城下町遺跡	南田町 134-11 外	堀尾期～京極期の畠跡を検出。松平期の掘立柱建物跡、礎石建物跡を検出。	2014刊
H 23	後廻遺跡	上乃木	弥生後期から古墳時代前期にかけての堅穴住居跡、布堀り掘立柱建物跡を検出。	2011刊
H 23	王子坂遺跡	上乃木	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。縄文時代晩期から近代に至る遺物が出土。	2012刊
H 23	スモト遺跡	古曾志町	時期不明の掘立柱建物跡等を検出。弥生中期後半から中近世の遺物が出土。	2011刊
H 23	江分遺跡	竹矢町	弥生中期から後期末の遺構や古墳時代後期を中心とする粘土採取坑を検出。	2012刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 68	幕末から明治時代頃の礎石建物跡を検出。	2015 予
H 23	松江城下町遺跡	南田町 136 - 13 外	7面の内、1～4面の調査を実施。礎石建物跡、掘立柱建物跡、屋敷境を検出。	2014刊
H 23	松江城下町遺跡	殿町 198 - 2 外	江戸時代後期以降の木樋を検出。素掘りの大溝（南北溝）を検出。	2014刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 45 外	6面の遺構面を検出。植栽痕、礎石、ピット、大形の土坑、素掘りの大溝を検出。	2013刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 180 - 28・29	前年度の西側（2区）を調査。礎石建物、掘立柱建物、素掘りの大溝、水田跡を検出。	2014刊
H 23	松江城下町遺跡	母衣町 100 外	北、東で屋敷境と思われる素掘りの溝を検出。東側の溝は幅20mを測る。	2012刊
H 23	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・南田町	工事立会調査を36ヶ所を実施。石組水路、素掘りの大溝を検出。	
H 24	山代沖田遺跡	山代町	中世前半以降の掘立柱建物跡、総柱建物跡を検出。	2012刊
H 24	柳堀遺跡	大庭町	近世の溝、時期不明の柱穴、土坑、杭列や自然河道を検出。縄文～近世の遺物。	2014刊
H 24	松江城下町遺跡	母衣町 127-2・128・198-1	礎石建物跡、屋敷境石垣、廃棄土坑、掘立柱建物跡、素掘りの大溝を検出。	2013刊

年度	遺跡名	所在地	遺跡の概要	報告書
H 24	松江城下町遺跡	母衣町 68	第3～6面の調査。第3遺構面で大量の肥前磁器、中国磁器が一括出土。	2015 刊
H 24	松江城下町遺跡	殿町 198-2 外	H23 年度調査区の南側で木樋の続きを検出。その東側では竹樋を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	母衣町 44 外	塀、石積土坑、土坑、植栽痕、素掘り大溝を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	南田町 130-6 外	第3面で堀尾期、あるいは堀尾期から京極期の掘立柱建物跡を検出。	2017 予
H 24	松江城下町遺跡	南田町 136-13 外	第5～7面の調査。第5面で畠跡を、第6面で掘立柱建物跡、土坑群を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	南田町 137-13 外・ 137-10 外	第2、3面で、敷葉工法を用いて造られた川土手を検出。	2014 刊
H 24	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・ 南田町	立会調査。米子橋の西側橋台部下で古石垣の跡と思われる集石遺構を検出。	
H 25	臼畑遺跡	鹿島町	23基の近世土坑墓を検出。	2015 刊
H 25	二部遺跡	古曾志町	縄文時代～古墳時代にかけての土器散布地。溝状遺構や土坑も検出。	2015 刊
H 25	大庭原ノ前遺跡	大庭町	奈良時代～江戸時代の掘立柱建物跡を検出。	2014 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 101-21 外	江戸時代における4面の遺構面を確認。川砂を造成土として使用。	2017 予
H 25	松江城下町遺跡	南田町 127-17 外・ 127-14 外・130-3 外	堀尾期と松平期の遺構面を確認。掘立柱建物跡を検出。	2015 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 134-1 外	松平期の与力屋敷跡の下に埋納された曲物容器と鉄の玉が出土。	2015 刊
H 25	松江城下町遺跡	南田町 132 外	江戸時代における6面の遺構面を確認。旧地表面からは中国白磁が出土。	2015 刊
H 25	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・ 南田町	工事立会調査を18ヵ所で実施。石組水路、石列、素掘りの大溝を検出。	
H 26	森屋敷遺跡	宍道町	弥生～近世にかけての遺構を検出。近代の製糸工場跡も見つかる。	2015 刊
H 26	長廻遺跡	上乃木町	縄文時代の落とし穴状土坑、古墳時代の土器埋納坑を検出。	2015 刊
H 26	茶山遺跡	浜乃木町	前期古墳2基を検出。	2014 刊
H 26	大場小原遺跡	大庭町	弥生時代の食料貯蔵穴や古墳時代の竪穴式住居跡等を検出。	2014 刊
H 26	北浦松ノ木遺跡	美保関町	縄文時代中期末～後期初頭の土器のほか、獣・魚骨等が出土。	2016 刊
H 26	廻り遺跡	西長江町	縄文～古墳時代の建物跡や土坑を検出。	2016 刊
H 26	松江城下町遺跡	南田町 134-1 外	江戸時代の与力屋敷を調査。畠跡も見つかる。	2015 刊
H 26	松江城下町遺跡	南田町 132 外	江戸時代の屋敷跡のほか、鍛冶炉跡や畠も検出。	2015 刊
H 26	松江城下町遺跡	殿町・母衣町・米子町・ 南田町	工事立会調査を61ヵ所で実施。石組水路、石列、素掘りの大溝を検出。	

埋蔵文化財課年報〈20〉

2017年発行

編集・発行

公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印刷

有限会社 松陽印刷所

島根県松江市学園南2丁目3番11号

